



昨今の社会情勢を鑑みまして、特に若い世代の中で、「宗教」の必要性は認識されつつも、「宗教者」の必要性について疑問符を持たれている風潮があります。

「末法」の世にあつて佛教の退廃は既知の事実であります。その中であつて、「寺離れ」「葬式離れ」「墓離れ」といういわゆる三離れは、末法の定義の世相に照らし合わせてみれば、当然の流れであろうと思われま



所信表明—躍動—

第31代 会長
和歌山日青会
松森 孝雄

しかしながら、私たちは何の畏れを抱くことはない、日蓮大聖人は一切経のご研鑽の中から、この末法の世においてこそ、法華経弘通の「時」であると示してくださり、私たちの有り様をご教示くださいました。

（釈尊）在世の本門と末法は一同に純圓なり。但、彼は脱、此は種なり。彼は一品二半、此は但題目の五字なり」と末法の私たちの為すべき使命は「下種」であると明確にお示し下さっております。

私たち全日青の活動は、すべ

てにおいて「妙法の下種」が根底にあり、それを外れての活動はあり得ないと考えております。

第三十代では、小泉輝泰会長の「私たち僧侶は自身の与えられた使命を、今一度『自覚』しなければならぬ。それは僧侶としての『自覚』、法華経を司る者としての『自覚』、そして何よりも、命ある者としてこの世に生を受けた使命への『自覚』」に目覚めて頂けるようにという活動方針、テーマをもって執行部一丸となつて活動してまいりました。

第三十一代では、その自覚を受けて「躍動」する期間に入ると捉え、活動して参ります。

私たちは日常生活においても、面白い本があれば友人知人に「これ面白いから読んで」と勧めます。面白い映画があれば「面白かったから観て」と勧めます。私たちは、そのようなレベルではなく、いのちそのものである妙法蓮華経に歎びを感じ、「この妙法五字を、法華経を人に勧めたい、勧めなければならぬ」という自覚に立つて、行動を起こさねばなりません。これは言うまでもなく「我もいたし、人も教化候え」のご聖訓に繋がってまいります。その行動のすべてが「下種」につながって参ります。これは直接の下種だけではなく、今の行動が未来の下種につながる遠因となることをも想定しなければなりません。

「躍動」とは「いきいきと活動すること」であり、させられる行動ではなく、自覚の上に立った自発的な行動のことです。

私たちは第三十一代執行部は、全国の日青会各聖に僧侶として、法華経の行者として、自覚して「歡喜踊躍」したのちの「躍動」そしてそれに伴う「法悦」よろこびに目覚めていただけるよう、様々な事業を展開して参りたいと思っております。

また、全国日蓮宗青年会の名が示す通り、各単位日青会のみならず、様々な活動のネットワークの構築をも視野に、様々な委員会活動を通してその経験ノウハウを広く全国に提案して参ります。その上で、青年僧としての誇りと、大聖人の御弟子として、直接間接に関わらず「妙法下種」「妙法広布」のために行動して行けるような、各種研修や講習会等の学びの場、活動の場を提供して行きたいと考えております。

また、第三十一代より一般社団法人「日青塾」が発足しました。対社会の活動の幅を広げ、常に法華経・日蓮大聖人の御教えを胸に帯し、袈裟衣を着けずとも本化の菩薩の振舞いとなる活動を展開して参ります。

未来を切り開く全国青年僧の皆様が、いきいきと活動できる、教化活動に躍動できるよう、執行部一同は全身全霊をかけて日青会活動のサポートをさせていただきます。

どうぞ皆さまのご理解とご協力を、切にお願い申し上げます。

全国日蓮宗青年会 第三十一代執行部 今期執行部活動テーマ 躍動

全日青副会長

神奈川県第二部日青会 大森 太郎

この度、副会長の任を拝命致しました。長きに渡り全日青に携わって来られました第三十一代松森会長の下、一新された執行部のメンバーと共に、全日青が全国で活躍される青年僧各聖の活動拠点、また情報拠点となれるよう、会長をサポートし、時代のニーズに応えて会の統括を計って参る所存であります。皆様方におかれましては、ご指導ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。と共、忌憚のないご意見をお寄せ下さいますようお願い申し上げます。

伝道担当委員長 北海道ブロック長

北海道西部日青会 松井 義宣

この度、第三十一代松森会長の下、伝道担当委員長を拝命致しました。宜しくお願い申し上げます。

世の中の価値観がめまぐるしく変わり、情報が身のまわりに溢れかえっている昨今ですが、日蓮宗は本年度より十年間に日蓮大聖人の御降誕八百年、前後に妙蓮尊尼七五〇回忌・龍口法難七五〇年・佐渡御流罪七五〇年・『開目抄』御述作七五〇年・『観心本尊抄』御述作七五〇年として大曼荼羅御本尊始頭七五〇年を控えております。すでに数多ある俗に言う「日蓮系・法華系宗派」では準備を着々と進めているとの話も耳にします。その他宗との違いを日蓮宗がどこまで鮮明にできるか、そして本当の教えをどのようにして伝えていくのか。「日蓮宗は伝道宗門である」折に触れてこの言葉を耳にして参りました。何を伝えるのか、その為には

自分たちは何をすればいいのか。絶えず自問自答しておりますが、このような時だからこそ、今すぐにも全国各地の志を同じくする青年僧が智慧を出し合い、一致団結して共に行動を起こしていかななくてはなりません。「十年前に用意しておけばよかった」と後悔しない為にも、伝道担当委員会では常に全国の会員の各聖よりのご意見を頂戴し全日青の活動に反映していきたいと考えております。短い任期ではありますが、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。宜しくお願いいたします。

災害対策担当委員長 九州ブロック長

福岡県日青会 川崎 泰龍

この度、第三十一代松森会長より災害対策担当委員長を、拝命いたしました。

今年、八月には高知県において台風十一号による一〇〇〇mmを超える大雨、京都福知山では二〇〇〇戸以上の浸水被害、広島では一〇〇〇名近くの被害者を出す大惨事となりました。

近年の自然現象は、短時間、局地的に大雨・土砂・突風被害をもたらします。以前に比べ状況変化のスピードが速くなっております。この状況変化についてゆくには、各単位日青会員の情報提供が必要です。皆様の情報提供をもとに災害現場において「人力支援・物資支援等」今何が必要かを判断してまいります。両面においても日青会員一人一人の力が必要不可欠になります。皆様のご指導ご鞭撻を賜り、災害に対する知識の向上と迅速な行動が出来ますように精進して参りたいと存じますので、この二年間何卒宜しくお願い申し上げます。

震災復興担当委員長

岩手県日青会 梅澤 宣周

第三十代全日青から引き続き震災復興担当委員長を拝命致しました。

先ずは、震災以後、全国から沢山のご支援頂きましたこと、被災地青年会を代表致しまして御礼申し上げます。

早いもので、東日本大震災から三年半が経過しました。日本国内観測史上最大の地震は、四十メートルにも及ぶ巨大津波を発生させ、東北地方の太平洋沿岸部の街を呑み込み、壊滅的な被害をもたらしました。そして、今尚、全国の避難者数は二十六万人を超え、被災地の生活再建はまだ途上であり、多くの方々にとつて大変厳しい状況が続いております。

福島県南相馬小高区に於いて定期的に行われている「お茶つこ会」の傾聴活動の中で、心が締め付けられる出来事がありました。

傾聴活動が終わり、来場者を一人一人お見送りしている時でした。白髪に背中が少し丸くなった初老の男性が、別れ際に私にこう話しかけてくれました。

「三年経っても、住む町もない、道もない、電車もない、けどみんなで助け合って一生懸命な毎日だ。この現実を沢山伝えて欲しい、そして忘れないで欲しい。」

その切実なメッセージは、震災直後から何も変わらぬ心情を意味しており、何分にも代え難く重い一言であったのを思い出します。私達は絶対に風化させることなく、一日も早く「心の復興、町の復興」を願い、活動を続けて行きたいと思っております。

つきましては、全国の各聖に於かれましては、被災地復興支援のご理解とご協力を宜しくお願い申し上げます。

「つないだ手は、離さない！」
被災地が復興するその時まで。

社会教化担当委員長

東京東部日青会 藤井 教祥

社会は刻一刻と変化しています。時代が変われば当然人々も変わり、文化も変わる。これはどうにも避けられない事象です。その常に変化していく時流の中で、

私たち宗教者は社会と接し、人々を教化していかねばなりません。もちろん旧来の教化方法や手段が通用せず、それが人々の心に響かない場合もあるでしょう。またそれとは反対に時代の流れが速すぎるが故に、古き伝統文化に回顧することもあるでしょう。

社会教化委員会では全国日蓮宗青年会の外郭団体として、平成二十六年四月二十八日に一般社団法人日青塾を設立しました。これは私たち青年僧と、変化し続ける社会との新たな窓口です。今期の当委員会の命題は、この窓口を如何に有用に活用出来るかに尽きます。そして社会に対して様々な形でアプローチを試み、既成概念に捉われない布教方法を展開していきます。

当委員会の青年僧は言います。もし仮に後世で仏教が退廃し、それを嘆く者がいれば、必ず私たちに「その瞬間、お前たちは何をしていたのだ」と問うでしょう。その時に私たちは「ただそれを見ていた」とだけは言うてはならないと。



立正平和運動担当委員長

中四国ブロック長 渡邊 泰雅

第三十一代の活動方針を「躍動」と据えた松森会長の下、立正平和運動担当委員長を仰せつかりました中四国ブロック選出、渡邊泰雅でございます。立正平和運動委員会の主な活動といたしまして歴代委員長のご苦心の上、現状の形になり多くの方に参加いただいております沖繩、長崎での唱題行脚でございます。

今、我が宗は立正安国・お題目結縁運動が、いのちに合掌をスローガンとし宗門運動として展開されております。私も僧侶の活動は、すべからず立正平和に繋がるものと確信しておりますが、その中でも青年僧ならではの活動、青年僧でなくてはできない躍動感のある活動を委員会として発信できるように検討いたしております。その躍動感が、市井の皆様への心の琴線に触れるならば、それは信徒の方々には信力増進、未信徒の方々には新たな教化にも繋がり、お題目結縁になるものと存じます。

最後に、全日青活動に不慣れな私でございますので、大方の先輩方の御叱正、御教示を切に願ひまして、拝命の挨拶とさせていただきます。

総務担当委員長 関東ブロック長

東京南部日青会 嚮 慈恭

この度、総務担当委員長を拝命致しました。総務の担当範囲は幅広く、規約等の運営や予算・決算等の財務、各委員会との連携と多岐に亘ります。その二つ二つは、全日青が活動する上で土台となる非常に重要な部分であります。第二十九代に於いて五十周年を迎え「原点回帰」をし、第三十代「誇り」「自覚」を指針に活動して参りました。そして第三十一代「躍動」を指針テーマに全日青＝単位日青会が有意義な活動を展開できるようにしっかりと土台を固め、全青年僧の活動拠点となるように精進して参ります。二年間「青年僧

にも出来ること」「青年僧だからこそ出来ること」を模索したいと考えております。皆様の忌憚ないご意見に目を耳を向けて参る所存ですので、全国単位日青各聖におかれましては御指導御鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

青少年教化担当委員長 東北ブロック長

青森立正青年会 川上 洋行

この度、東北ブロックより推挙され、第三十一代松森会長の下、青少年教化担当委員長を拝命させて頂きました青森県日蓮宗立正青年会の川上洋行です。

青少年教化担当委員では二つの活動をメインに進んで行きます。

一つ目には、修養道場・寺子屋活動の開催方法の紹介、地域に密着し定期的に青年教師が会場を寺院にこだわらず青少年幼年の子供達に仏教、法華経に触れるような活動を興しやすいう宗務院やNSN(日蓮宗青少年教化ネットワーク)等にご協力を仰ぎ資料を集め、この二年間で何らかの形で配信できるように進んで参りたいと思ひます。

二つ目には、第二十九代委員長でありました三代上人の時に始まりました「集まれ東北の子どもたち」の開催です。東日本大震災において突然にして震災孤児・遺児となつてしまった子ども達が青年僧や他の色々な職種の方々とはふれあい将来を見据えられるよう、前を向いて歩けるよう、それぞれの種がこれからの人生において水や養分をもらい、いつの日か芽生え、そして美しい華を咲かせることができるように背中を「ちょっとだけ」押し上げてあげるような活動です。

任期の二年間のなかで満足のいくような結果はすぐには出るとは思ひませんが、将来の日本を背負う青少年幼年の子ども達が仏教、法華経、日蓮聖人の精神にふれ心豊かな信仰を持ち人生の一助となりますよう、この二つの活動を多方面の皆様のご指導ご支援ご協力をいただきながら推し進めて参りたいと思ひます。

海外布教研修担当委員長

佐賀県日青会 前田 智珠

「伝道宗門」を標榜する日蓮宗において「四海歸妙」とは言葉だけと擲論されることが多く、事実、某宗教団体の後塵を拝する現状を打破するには何が必要なのか？明治以来、近代開教を支えてきた先師の経験や知識を承け、さらに発展、飛躍する為には海外布教の研修は必要不可欠だと思われれます。開教の現場を知る者の声を届けるということで、先の市川委員長より委員長の任を継承致しました、元開教師の前田智珠と申します。開教への興味関心は無くとも、経験することによつて今後の布教の一助となり得る研修を企画出来ればと考えております。皆様の研修へのご参加をお待ち申し上げます。



広報教宣担当委員長 北陸ブロック長

新潟県東部日青会 本田 義昌

私達、日本人の多くは「沈黙を美德とする」という習慣や歴史があるようですが、その為か良きにしろ悪しきにしる、自己の経験や行い・考えを広くアピールすることに抵抗を感じやすい人種だそうです。しかし昨今の世の中を鑑みますと「自分に被害が及ばなければ首を突っ込みたくない」「見て見ぬふり」「臭いものには蓋をする」と言うような人々が多いように感じます。これは歴史や習慣、文化とは全く違う事柄で、我々一人ひとりが「他を敬い人を尊ぶ」といった日本人ならではの「心の温かみ」の欠如からではないかと考えます。

自分一人では怖くて、どう動けば良いのか？どう対処して良いか？解らないことがあるのも正直なところですが、そんな事柄に物怖じすることなく真正面から真剣に取り組み活動を起こしている各単位日青会や全国の青年僧がおります。その熱い思いを皆さんに広く知って頂き檀信徒の皆さんに周知してもらおうのが、広報教宣担当委員長の使命だと理解しております。

我々日蓮宗は伝道宗門です。広くこの教え、法華経の精神「人が人として生きる心の在り方」気付かずに眠ってしまったる方の心の眼を自覚めさせられるようなアピールの仕方。魂の籠ったメッセージを全日青というネットワークを通じ全国の皆さんにご理解いただけるよう、この二年間全身全霊の決意と覚悟をもって勇猛精進してまいり所存であります。力不足の点多々あるうかと存じますが、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

行学道場担当委員長 近畿ブロック長

京都日青会 藤井 淳至

日蓮宗事典の「行学二道」を見ますと「行」とは「法華経の実践修行」「法華経色読」、「学」とは「仏弟子と

して仏使の道をあやまたず、仏法の大恩を報じて行く「行者」の進路を間違えなく歩むための学」とあります。ですから私たちは「行学」と口にする時、決して独善的にならず、常に釈尊・宗祖の弟子として道を誤っていないかと確認し続ける必要があります。

又、御遺文には「行学たえなば仏法はあるべからず」「仏法ありといえども僧あつて習い伝えずんば、正法像法二千年過ぎて末法へも伝わるべからず」とあります。私たちが信心強くして仏法を正しく習い伝えなければ、仏法は絶えてしまいます。

行学道場は講師を招いての講演会となることが多いのですが、事典にも「行と学は鳥の両翼の如く、どちらを欠いても仏法は成り立たない」とあるように、青年僧侶が一堂に会して学び情報や感情を共有しそれぞれの自覚を高めることは単なる学習会ではなく、私たちが法華経を実践修行する為には不可欠な時間なのです。

「青年僧侶」という言葉を未熟さの言い訳に用いること無く、個々には仏使の自覚を持って道を誤ること無く、僧伽としては法友互いに励まし合つて志高く青年僧侶らしい躍動感溢れる布教活動を展開する為、有意義な行学道場を開催できますよう力を注いで参りたいと思ひます。

結集担当委員長 中部ブロック長

岐阜県日青会 阪口 映徳

この度、中部ブロックよりご推挙いただき、結集担当委員長の任を仰せつかりました。

全国日蓮宗青年会では各々が研鑽し合い、その志を高める一助となることを目的として年一度、全国各地で結集大会を開催して参りました。この活動は昭和三十七年、歴代先輩各聖に礎を築いていただいた以来脈々と受け継がれ、来年の岡山結集で第五十三回を数えます。

当会の発足時より事業の根幹と位置づけられてきたこの結集大会開催に向け、全力でサポートをさせて

いただく所存です。結集により団結を深め、異体同心を確認し志を高め合うことは、必ずや宗門繁栄、祖願達成の礎となることでしょう。

会員各聖におかれましては、万障お繰り合わせの上、今後も結集大会にご参加いただきますようお願い申し上げます。多くの同志の皆様とお会いできる日を、心より楽しみにしております。

二年間という限られた期間ではありますが、皆様のご指導ご鞭撻のほどを宜しくお願い申し上げます。

活動普及担当委員長

三重県日青会 鷲阪仁昭

この度、活動普及担当委員長の任を拜命致しました。全日青の活動が、全国の青年僧に普及すること、またよく知っていただけることが大事であると考えております。

私が所属しております三重日青会は、私が入会当初は未加盟でありました。しかし、全日青結集参加のご縁をいただき、そして地元中部ブロックでの名古屋結集を期に復帰しました。

それ以降、数々の活動への参加を通じて全日青活動の素晴らしさ、更には感動する出来事が心に刻まれております。その全日青ならではの参加者一丸となつての熱き活動、そしてその想いを単位日青会の一人一人に伝えていくこと、また未加盟単位日青会との対話を図り、未加盟の経緯や理由などをお尋ねし、深く受けとめて、今後益々の全日青の和が広がりますよう努力してまいります。青年僧一人一人が本宗教師であるように、一人一人が全日青の会員であつたら、それは素晴らしい事ではないでしょうか。

二年間、全国の単位日青会各聖には何卒御理解と御協力、また御指導御鞭撻をお願い申し上げます。挨拶とさせていただきます。宜しくお願い致します。

全日仏青担当委員長

栃木県日青会 野澤智秀

この度、第三十代より引き続き全日仏青担当委員長の任を拜命致しました。

全日本仏教青年会(以下全日仏青)の事務局長と致しまして全日仏青の維持運営等の会務遂行と全日青とのパイプ役を務めさせていただきます。

全日仏青は九宗派仏青と四地域仏青の十三団体、会員約三万人で組織されております。それぞれの信仰や理念が交錯する中で多くの行事、イベント等を通じて広報を行っております。毎年皆様方にご案内させて頂いております奈良県東大寺で行われる「仏法興隆花まつり千僧法要」もその一つでございます。

「若き想い・力」を一極集中させて、「全国の仏教青年の連携と友好をはかり、仏教文化の宣揚と世界平和の進展」を目指してまいります。

今後も皆様方には宗派を超えた全日仏青の情報を発信させていただきます。いつか世界中の人達の心に宿っている種が芽吹いて、世界中にお釈迦様の優しい心が届くことを願って活動してまいります。今後とも皆様方のご指導ご支援ご協力を深くお願い申し上げます。

事務局長 和歌山日青会 吉野俊幸

松森会長の下、この度事務局長の任を仰せつかりました。

まずもって、遠山前事務局長はじめ、前任の事務局員各聖には大変お疲れ様でございました。

事務局は、全国単位日青会様の窓口業務と全日青執行部の運営サポートが主な役割でございますが、前任の各聖が作り上げられた事務局業務を引き継がせていただき、新事務局員と共に真摯に運営に務めて参りたいと存じます。

幸いなことに、新事務局はとても意欲的で責任感の

強い方々で組織されており頼もしい限りでございます。事務局員を引き受けて下さりました各聖には、衷心より感謝申し上げます。

歴史ある全日青の運営の一端を担う立場に就任しましたことは、大変光栄に感じるとともに責任の大きさに身の引き締まる思いでございます。

はなはだ浅学非才の身ではございますが、各単位日青会様と全日青のさらなる発展のために全力を尽くしたいと思っております。

又、全日青結成以来五十年以上に亘り代々受け継がれてきた、青年僧ならではの力強い活動の精神と、各単位日青会様との絆を礎に今後の様々な活動を通して全日青に関わる方々が「躍動」する二年間になれるよう事務局として支えて参りたいと存じます。

誠心誠意努力して参りますので、全国の青年僧の各聖におかれましては、格段のご指導とご協力を賜りますようお願い申し上げます。就任の挨拶といたします。

財務担当	長内要純	事務局長	武内正行
事務局長次長	清水文雅	事務局長	中井通雄
財務補	望月恵真	事務局長	植田観龍
事務局長	岡崎英里	事務局長	長瀬美咲
事務局長	大西法樹	事務局長	守法慶隆
事務局長	和田龍政	事務局長	柳本晃教

「お詫びと訂正」

事務局員 大塩裕孝
事務局員 田澤裕泰

機関誌第一七二号において執行部事務局員名簿で記載漏れがありました。お詫びして訂正致します。

東日本大震災慰霊復興唱題行脚

【岩手県仙台市荒浜地区】

震災復興担当委員長
岩手県日青年会
梅澤 宣周

※この記事は先回の機関誌に掲載予定でしたが、今号にてご紹介させて頂きます。

東日本大震災から三年目の二〇一四年三月四日、宮城県青年会企画の元、仙台市荒浜地区にて被災地慰霊復興行脚を行い、全国から六十四名の青年僧が集結した。

今回の行脚ポイントは、東北最大都市である仙台市街地から車で二〇分程度の場所に位置する荒浜地区となる。

東日本大震災時は一〇メートル級の津波が住宅地を襲い、八〇〇名近くの方々が亡くなられ、未だ行方不明者の捜索が続いている。五メートルの防潮堤は破壊され、数百メートル続く防災林の松の木々は見るとも無惨な姿になった。その奥にあった多くの住宅は全て津波に呑まれ、仙台東部道路付近にまで被害が及んだ。本当に多くの悲しみだけが取り残された場所となっている。

全国の青年僧が集結したのは、東北の「大木山 孝勝寺」。仙台市は晴天ながらも、外気温は五度を下回っていた。凍えた身体を暖かく迎えてくれた孝勝寺の控え室、行脚前まで青年僧の心までも温かくしてくれた。行脚出発前に全日青小泉会長導師により、本堂前に於いて法味言上が行われた。

その後、孝勝寺谷川貫首猊下から一言を頂いた。

「青年僧一人一人が気持ちを持って、被災地の慰霊供養・復興祈願を続けて欲しい。」と力強いお言葉だった。

そのお言葉を心に止め、身の引き締まる思いで行脚ポイントの荒浜地区へ出発した。

宮城県青年会の玄題旗を先頭にしながら、六十四名が一行になり慰霊復興行脚がスタートした。

海岸部が近いこともあり、冬の海風が特に強く感じた。時々太鼓が強風により飛ばされそうになり、身体に太鼓を密着させて只ひたすらに行脚を行う。

行脚の道中は緑石がない道路が続く、復興を後押しする大型ダンブが狭い道を往來する。歩行の為に前後左右、車両等に常に注意を払い、道中は危険を伴う状況だった。

住宅跡地は背の高い枯れ果てた草木が数多く群生しており、基礎部分だけがむき出しになっていた。そこは震災のガレキが除去されただけの状態であり、この場所もある時から時が静止したままであった。すれ



違ふ歩行者は誰一人として居らず、何も無くなった場所を太鼓の音とお題目だけが力強く木霊した。海岸線に近づけば近づく程、容赦のない海風が身体を凍えさせた。「しかし、三年前の三月十一日もこのくらい寒かったのだろうか」そんなことを思い噛みしめ直し、慰霊ポイントである慰霊観音像まで歩き続けた。

慰霊観音像前に着くと二時四十六分まで唱題行を行った。大きな太鼓の音と、青年僧のお題目だけが響き渡る海岸線。この直ぐ目の前の立ち入り禁止の砂浜では、三年前に大津波がおき、三〇〇名の尊い命が失われ、その遺体は波打ち際で見つかった。そのような場所でも色々な思いが各々交錯する中、午後二時四十六分が訪れる。引金の音が空にこだまする。太鼓は鳴り止み、お題目の音が消えてゆく。青年僧は静かにまふたを閉じ黙禱を捧げた。静寂の中に打ち寄せる波の音の中、青年僧の祈りだけが込められた時間が過ぎていく。

小泉会長が慰霊復興祈願回向を一心に読み上げ、慰霊行脚は幕を閉じた。今まさに青年僧一人一人の思いが、亡く

なられた御魂に届けられた瞬間であった。

もう目には映らないが、そこには住宅地があり、その場所は活気に満ちあふれていた。東日本大震災から三年目。依然、復興が進まない被災地は、人々の苦悩に満ちあふれている。前向きな表情を見せる方々は沢山いるが、心の闇はとて深いと感じる。もう戻ることの出来ない現状だから、前に足を向けるしかないのだ。

だから決して一〇〇%元気でなくてもいいし、決して素直に前向きでなくてもいい。

未だ二千六百三十六人の方々が不明、そして一万五千八百八十四人の尊き命の犠牲があった。震災関連死も深刻な問題であり、全国で避難者している二十七万三千六百六人の一人一人の気持ちも善く善く考慮しなくてはならない。

行脚の最中の一つ考えさせられる出来事があった。狭い道路を歩行中の行脚隊が邪魔だったらしく、大型ダンブがアクセルを空吹かして何度も煽られ、反対車線から抜き去られると言う一コマがあった。我々宗教者の現在における価値が見えた瞬間でもあったと思う。宗教自体が必要とされていない時代を肌で感じた瞬間だった。まだまだ色々と課題が多い中、我々僧侶はこの震災で起きた事柄を理解し、何をすべきかを問い続けながら復興を遂げるまで邁進していこうと思う。

来年は福島県で慰霊唱題行脚を行う予定である。東日本大震災により甚大な被害を受けた東北ブロックでは、毎年三月に慰霊復興を祈り、岩手・宮城・福島の被災地を行脚し続けて行く。引き続き、全国日蓮宗青年会並びに震災復興担当委員会は、今後もサポートを続けて行こうと思う。

最後に、今後も数多くの被災地へのご支援を宜しくお願い申し上げます、活動報告とさせていただきます。

「和田龍昌上人御遷化される」

全国日蓮宗青年会第十三代委員長、和田龍昌上人が去る平成二十五年九月十四日に御遷化されました。ここに上人の略歴を紹介申し上げ、哀悼の誠を捧げます。心より増圓妙道を御祈念申し上げます。

合掌

和田龍昌上人略歴

妙行院日佑上人



昭和十八年六月十四日誕生
 平成二十五年九月十四日命日 世壽七十一歳
 京都 大本山 妙顯寺 第六十六世
 京都 本山 妙覺寺 第八十四世
 大阪府東大阪市 寶樹寺 第二十五世
 第十三代 全国日蓮宗青年会委員長

身延山短期大学仏教学部宗学科卒業 法主賞受賞
 立正大学仏教学部宗学科卒業
 加行所第五行成満
 日蓮宗専任布教師
 日蓮宗社会教導師
 日蓮宗大阪府修法師会副会長
 日蓮宗大阪府協議員
 日蓮宗大阪府宗務所護法担当事務長
 日蓮宗大阪府宗務所所長

昭和六十三年五月
 平成二十三年六月

東大阪市寶樹寺住職就任
 京都 大本山 妙顯寺晋山
 京都 本山 妙覺寺加歴

事歴

東大阪市青少年指導委員

「第五回お茶っこ会」

福島県南相馬市

全日青被災地復興支援傾聴ボランティア活動

平成二十六年九月十日、福島県南相馬市小高区で「第五回お茶っこ会」が行われ、全国から二十名の青年僧が集結した。

いつものように青年僧の自己紹介から始まる「お茶っこ会」。

遠方から足を運んでくれた方の自己紹介は、特段拍手の音が大きくホールに響く。これは、いま僕らが確実に必要とされていると感じる瞬間だ。

毎回毎回、来場者からの話題は多岐にわたるが、必ず震災関連の話を耳にする。今を話す言葉一つ一つは重い言葉の羅列であり、現状を知ることのありがた



さを感じると共に、自分たちが何を出るか再度考えさせられる。

マスコミや報道も減少の一途をたどり、被災地で何を求めているかを知る為にはこの場はとて貴重であり、大切にしなければならぬ。

風化が進む中、僕らには何が出来るか自問自答の日々。

そんな中、今回から一般社団法人「日青塾」も新たに共催に加わった。そのことにより、もつときめ細やかな支援や可能性が広がることを期待する。

第五回目を迎えやつと形となってきた「お茶っこ会」。

みんなで作り上げてきたこの手作りの空間は本当に大切にしていきたい。

小高区は震災以前、自然が豊かで子どもが多く、地域みんなで子どもを見守り育てている町だった。しかし震災以降、福島第一原発事故の影響により地元での仕事が出来なくなり、家族と共に家を出て避難せざるを得なくなつた。

ある女性は町を離れて初めて、今までの何気ない日常がどれだけ有難かったか気づいたという。

次回開催予定は、十二月上旬。もつと多くの方に参加をして頂き、被災地の今、そして悩める方々の後ろ盾に少しでもなれるよう支援を続けていきたい。

震災復興担当 梅澤宣周

広島土砂災害

災害対策担当委員長
川崎泰龍

八月二十日午前三時頃、局地的な短時間大雨によって安佐北区可部、安佐南区八木・山本・緑井などの住宅地後背の山が崩れ、同時多発的に大規模な土石流が発生した。

広島市災害対策本部のまとめでは、九月二十日現在、死者七十四名、三十八世帯七十三人が避難所に身を寄せている。住宅への被害は全壊百三十三戸▽半壊百二十二戸▽一部損壊百七十四戸▽床上浸水千三百戸▽床下浸水二千八百十一の計四千五百四十戸。断水は今も九十戸で続いている。

八月二十日の早朝、広島市において大規模な土砂災害が発生しているとの二報を受けました。



中四国ブロック長へ連絡するも現在情報収集の遅延、連絡待ちとなった。その間にも行方不明者が徐々に増えていく。

お昼頃、広島県の龍華寺が被災されたことを知り、広島県日青会、長崎龍深会長と連絡を取る。地元広島でも情報収集に努めているが被災地には入ることができず「情報の収集に手間取っている」とのこと。現地でも混乱している様子が伝わってきた。

そして、龍華寺の本堂及び庫裡が被害に遭われていると言ふこと、また御住職はじめお寺の方々には近くの避難所へ避難され、無事であることがわかった。

私は二十日の夜に広島に入ることができた。広島インターを降りてまもなく、警察の機動隊を乗せたバスや消防車両が五十台ほどの列をなしていた。山手のほうを見れば行方不明者捜索の為に暗闇の中「灯火器」の明かりが点々と見え、その周りは土砂しか見えなかった。龍華寺の近くまで行こうとしたが、土砂で車のタイヤが滑り、町一帯が停電で周りは暗く危険と判断し、引き返すことにした。

報道では行方不明者がどんどん増えてくる。夜中に外を見ると灯光器に照らされる被災現場、JR可部線の線路の土砂撤去作業が夜を徹して行われていた。何もできなく一日が終わった。

翌二十一日、正田上人が避難されている小学校へ向かった。そこには親戚や知人の安否を確認する人や報道関係の人が大勢集まっていた。体育館にはすでにたくさんの方々が避難していた。又、体育館・教室には多くの方々が避難されていた。正田上人



とは挨拶もそこそこに、龍華寺へ向かった。お寺までは車では行けず、途中、車を止め歩いて向かった。

山手へ向かう道の脇に立つ家が土石流の力で二階部分が道へと倒壊していた。道路も約十センチ泥水で冠水していた。十分ほど歩き十字路を曲り急こう配の道を登っていくと龍華寺があり、お寺の参道には流木や折れた電柱が道をふさぎ通る事が出来なかった。

脇道も二十センチほど泥水で冠水していたが、そこしかお寺へ辿り着くルートがなく土砂の上を渡りようやく辿り着く事が出来た。

鉄筋コンクリートの四階建てのお寺。これが木造の造りだったら流されていたと、すぐに解るほどの被災状況。山から崩れてきた流木が三階部分まで到達しており、一階部分は土砂や岩で一メートルほど埋まっている。

土砂をよじ登り何とか二階の本堂へあがった。床一面の土砂。その勢いで塔婆や長椅子が散乱していた。御宝前は、後ろの壁から流木が突き刺さっていたものの、幸いにも御祖師様・仏像は無傷で鎮座されている。

午後から龍華寺の御住職に報告すると共に、当時のお話が聞けた。土石流発生時は大きな音が聞こえ、地震と思えば外を見てみると駐車場にあったはずの車や近所の家まで流されていた状態で、どうしようもなく救助を待っていると、レスキュー隊と共に槽信徒の方が来られ、五十メートルの道のりを腰まで土砂につきり、隊員におんぶされながら一時間かけてようやく救助された。

命がけの救助・避難だったと実感させられた。お寺の状況を寺族に報告すると「お寺の復旧に強い意志」を示された。

そこで全日青として土砂撤去に際しお手伝いをお願いしたが、今は行方不明者の捜索を優先したいとの希望であった。

地元に戻り全日青松森会長に現状を報告し、龍華寺とのやり取りで土砂撤去作業が二週間後の九月八日と決まる。

その間にも広島日青会や岡山立正青年会は一般ボランティアとして参加し復興に従事していると報告を受けた。九月八日、龍華寺土砂撤去作業は広島県宗務所主催のもと、約八十名での作業となった。みんな泥や汗まみれになり作業した。その後、広島日青会長、長崎上人導師のもと龍華寺境内から眼下に広がる八木地区に向かいお題目を唱え、犠牲者の供養並びに早期復興の祈願がなされた。

近年の災害は、範囲は狭いものの三日間で年間雨量に達したり、竜巻による突風被害など、以前とは災害の形や被害状況が変わってきている。自然災害はいつどこで起こるか分からない。公民館や公共施設等が被害にあった場合、お寺が避難場所となり災害対策の拠点となる可能性が極めて高い。このような災害に対しお寺は何か出来るかを今後検討していかなければならないと考える。

中部岐阜結集 報告と御礼

第五十二回全国日蓮宗青年僧
中部結集岐阜大会実行委員長

阪口映徳

全国の日蓮宗青年僧侶で構成される全国日蓮宗青年会(全日青)。宗祖日蓮大聖人の願いである世界平和・安穏な社会づくり人づくりのため、体力と持久力を活かして社会活動や奉仕活動、布教活動を行っています。また、全日青では青年僧が互いに研鑽し合い、志を高めるため、毎年全国各地に集い、結集大会を開催しています。

結集大会での活動は、お題目を唱えながら団扇太鼓をたたいて歩く「唱題行脚」をはじめとし、慰霊法要やボランティア活動など様々です。この結集大会を、本年は「第五十二回全国日蓮宗青年僧 中部結集岐阜大会」として、岐阜県岐阜市を会場に去る五月十五日(木)・十六日(金)に開催致しました。

会場となった岐阜のシンボルともいえるべき岐阜城(稲葉山城)の歴史は古く、建仁元年(一一二〇年)二階堂行政公が稲葉山(金華山)に砦を築いたのがはじまりとされています。戦国時代には、斎藤道三公の居城であり、織田信長公から「美濃を制する者は天下を制す」と諷われ、天下統一の要所とされた場所です。しかし実状は、数々の攻撃により七度の落城を経て、当時の物は城址の石垣を残すのみとなっています。この岐阜城を制してきた代々の武將達には法華経を信仰するものが数多く、その家臣や側近達もまた同じ信仰者でした。岐阜城落城の際には、ある者はお題目を唱えて討ち死にし、ある者はお題目を唱えながら池に身を投げたそうです。また、近代では昭和二〇年(一九四五年)七月九日、第二次大戦中に大規模な空爆を受け、寺院や家屋は焼き払われ、多数の死傷者を出したのです。



中部結集岐阜大会では、大会前日となる十四日、全日青第三〇代・小泉輝泰会長を含む代表者五名によって岐阜城金華山にある「題目塚」での戦没者慰霊法要、翌十五日には二百六十五名の青年僧が約十キロメートルの道のりを唱題行脚(岐阜市内)しました。今回の行脚の行程を事前に岐阜県警や公安当局に届け出たところ「安全かつ円滑に行脚活動が進行できるように」と、パトカーの先導のもと警察官がともに歩き、行脚のサポートをしていただけになりました。しかも、二つの警察署が連携をして、約二〇名の警察官を動員してくださり、大変心安く行脚に専念できました。しかし、十キロメートルの行脚コースで休憩が一度しか取れず、信号待ちの時間を休憩にあてるしかありません。過酷な環境下での行脚は思いのほかに体力の消耗が激しく、このままでは全員で最後まで歩ききることが難しい状況となりました。しかし、行脚が中盤に差し掛かった頃、

天には雲がかかり雨が降り出しました。行脚をさまたげない、気持ちの良い程度の小雨です。

行脚をしながらふと街頭に目をやると、傘をさしながら私たちに手を合わせてくれる小学生がいました。雨に濡れながら笑顔で待つてくれているおばあさんがいました。先輩方が法衣を纏い合掌してお迎えくださいました。私たちの後ろについて歩いてくれる子供たちがいました。疲れとともに重たくなった足を、皆さんの姿が前に前にと運んでくれました。かくして、一人の脱落者を出すことなく、無事に行脚を終えることができました。

翌十六日の総会では、今大会で任期満了を迎えられた第三〇代・小泉輝泰会長より第三十一代・松森孝雄会長へ全日青旗が手渡され、御礼のお言葉と全日青執行部の交代を宣言されました。

この結集大会の開催にあたり、岐阜県日蓮宗青年会(岐阜日青)の会員は三名でした。「岐阜日青の現状では開催が危うい」との判断に、岐阜日青OBの先輩方や中部ブロックの各日青会(長野県・愛知県名古屋・愛知県尾張・愛知県三河・三重県)がサポートしてくださり、開催ができることとなりました。皆さんが影に日向にご尽力いただけただからこそ、今大会が開催でき、無事円成に導いていただけたと感謝が絶えません。

私がまだ小さかった頃、祖父に「なぜ大きな声でお題目を唱えないといけないの?」と尋ねたことがあります。祖父は、「世の中にはわしのように耳の遠い仏様もある。そんな仏様にも平等に聞こえるように、大きな声でお

題目を唱えなさい」と言って聞かせてくれました。

岐阜城(稲葉山城)は築城以来、お題目の信仰に導かれた武將に治められてきました。家臣や側近達、そこに住む民衆もお題目の信仰をしました。しかし現状は、県内の仏教寺院数二千三百件に対し日蓮宗寺院はわずか五〇件程。本当はお題目を聞きたい仏様が沢山みえるのに、お題目が浸透しにくい環境なのかもしれません。今大会により、日蓮宗青年僧の異体同心のお題目の声、皆で奉げた至心の祈りは必ずや「耳の遠い仏様」にも届いたことでしょう。今大会で得た経験が今後よりいっそう発展し、国家の安穏・世界平和へつながるよう、強く願っております。

最後になりましたが、ご来賓各聖におかれましては、ご公務並びにご法務ご多忙の中、今大会へご来賓賜り温かい御心と御言葉を頂戴致しましたことに厚く御礼を申し上げます。また、会員数の少ない岐阜県を会場とし今般無事円成できましたことは、ご協力いただきました心熱き皆様のご尽力と、ご参加いただきました心熱き青年僧のおかげと、深く感謝申し上げます。



立正平和運動担当委員長

渡邊 泰雅

平成二十六年八月二日、長崎市におきまして「長崎原爆殉難者慰霊行脚」また「長崎原爆殉難者追善法要」が厳修されました。

この行脚は、毎年八月に長崎県日青会が主催してござっております。本年は長崎原爆投下六十九周年、つまり殉難者第七十回忌正当ということもあり、例年は唱題行脚のみ青年僧を中心に行っておりましたが、長崎原爆投下六十周年以来、十年ぶりに檀信徒の方も御参加下さり、長崎県日青会より二十四名、全日青より十五名、また檀信徒の方々十八名の参加がありました。

また唱題行脚の後に法要を厳修し、僧俗一体となつて往時を偲ぶ盛大な行脚と法要となりました。

行脚の前に原爆資料館にバスで向かう道中でも長崎日青会員より戦時中の原爆投下の様子や、その後の被害などを説明してくれました。その話をふまえて原爆資料館での展覧を見ると、「立正」「平和」の意味を心奥で考えなおす契機を頂戴いたしました。

当日は台風が迫るあいにくの雨天で、行脚の順路は縮小されてしまいましたが、原爆落下地点、平和記念公園を唱題行脚いたしました。その後の法要では、会場をご提供くださった本蓮寺様のご厚意もあり、長崎県日青会加藤功承会長を導師に青年僧を中心とした法要をお勤めすることもできました。

加藤会長の第七十回忌に対しての篤い思いの伝わるご回向を聞いて私も仏教徒として節目のひとつとなる第七十回忌の年に、初めてご当地に赴いて行脚、また法要に参列させて頂いたこと、大変ありがたく存じます。この行脚と法要にお力添えをくださった皆様に謝意を申し上げます。



立正平和運動担当委員会委員

鳥取県日青会 那須 孝允

去る六月二十三日、沖縄慰霊行脚に参加してきました。この行脚は沖縄県の定めた「慰霊の日」に併せて行われております。

昭和二十年六月二十三日に沖縄戦の組織的戦闘が終結したことに基づいて「慰霊の日」は制定されており、糸満市摩文仁の平和祈念公園で沖縄全戦没者追悼式が開催されています。

我々全日青行脚隊一行はこの追悼式中の正午に捧げられる黙禱に合うよう一路、平和祈念公園に向け唱題行脚を行います。

集合時間の六時四十分、バケツを引っ繰り返した様な大雨で不安になりながらも、法華経寺からバスに乗り込む頃には降り止みました。行脚の出発地点(糸満バスロータリー)に着くと、日差しが照り付け蒸し暑くなり、体力が持つのかと不安の声も聞かれました。しかし「戦没者の方々の苦しさに比べたらこれくらいの蒸し暑さなど楽なものだ」との先輩の一声のもと、沖縄全土に響かせる気持ちで唱題行脚を行いました。

途中、ひめゆりの塔・健児の塔・黎明の塔を経て十一時過ぎには平和祈念公園に到着しました。正午の黙禱で我々青年僧は勿論、式典に参加している方々も頭を垂れ、辺りは風の通る音だけが聞こえる何とも厳かな時間でした。

私は今回、救護班として裏方の役をしていましたが、六十九回目の慰霊の日に行脚を行い、沖縄の現地でしか感じることできない貴重な体験をさせて頂きました。来年は終戦七十年目の節目の年、再び沖縄の地でお題目をお唱えできるところを切に願っております。

活動報告



全日本仏教青年会 JYBA

ALL JAPAN YOUNG BUDDHIST ASSOCIATION

理事長 伊東 政浩

副理事長 全日青会長 松森 孝雄	理事 全日青 副会長の部 前田 智珠	理事 全日青 副会長の部 谷川 寛敬
理事 全日青副会長 大森 太郎	理事 全日青 副会長の部 野澤 智秀	
理事 全日青副会長 小泉 輝泰	事務局長 全日青 副会長の部	

事務局：藤崎善隆 石本真教 植木本澄 田島海理
 会計：西村寛隆 小林貫龍

<http://www.jyba.ne.jp/> ※以上全日青よりの出身者

御廟所のケヤキ、千本杉の杉

樹齢数百年の身延山の千本杉の杉、御廟所のケヤキ
 いずれも落雷にうたれ、伐採された貴重な銘木です
 珠数、お守り腕輪に仕立てます。
 十分乾燥しております、数に限りがございます。
 ご注文はお早めにお申し付け下さい。
 詳しくはお電話にてお問い合わせ下さい。

〒409-2524 山梨県南巨摩郡身延町身延3659

松司軒仏具店

電話・Fax兼用 0556-62-0210

一般社団法人日青塾の理念と今後の展望

社会教化担当委員長
一般社団法人日青塾理事

藤井 教祥

持つ者と持たざる者の差は思いのほか大きい。またチャンス掴む者は、準備が出来ている者だとも言う。東日本大震災以降、社会における宗教者の役割が見直されている。日蓮宗も復旧復興活動を多岐にわたって行ってきたが、その過程には様々な壁があった。宗教法人や宗教団体と行政や地方自治体との折衝の困難さ、被災者との意思疎通の齟齬など例を挙げれば様々である。何とか被災者の力になりたいという純粋な気持ちで行動を起こそうとしても、宗教法人であるが故に行政機関からストップがかかりスタートラインにさえ立てなかったこともあると聞く。過去に「たら」ればは無いが、それでももしあの時に私たちが社会貢献活動を主とする別法人を取得していれば、と言う思いは禁じ得ない。恐らくはもう少し上手に行政などと連携し、スムーズな支援活動が出来ただろうと推測する。

それでも宗教者は、そして日蓮宗は不断の努力と被災者への思いを糧に、現在まで多くの困難を乗り越えて支援活動を行ってきた。このことは社会に大きな反響を呼び、社会での宗教者の立場の向上に大きな影響を及ぼした。僧侶が本来備えている自己犠牲の上に成り立つ「生まれつきの善」を表象したと言える。

全国日蓮宗青年会はその外郭団体として本年四月二十八日に一般社団法人日青塾を設立登記した。そのきっかけはまさに先に述べた東日本大震災である。青年僧の被災地への思いをもっとダイレクトに、もっと効果的に伝えたいと考えてのことだ。もちろん日青

塾は決して万能ではないし、一般社団法人を取得したからと言って全てが叶う訳でもない。しかしながら社会に私たちの思いを伝える一つの利器を手に入れたと捉えて良い。つまり私たち青年僧の活動の幅を広げ、選択肢を増やすことになる。時と場所、相手に合わせて法人を使い分け、本来の目的を達成するためにいくつかの手段を試行することが出来るのだ。これが冒頭に述べた、持つ者と持たざる者の差であり、準備が出来ているか否かの違いと言える。

また日青塾は未信徒教化にも一役買うだろう。未信徒教化は私たちの命題であるが、この場合の未信徒とは、宗教にも仏教にも縁がない、寺院にも訪れたことがない、日蓮宗もよく知らないと言う人々を指す。彼らにとって宗教とは全くの未知の世界であり、日常とかけ離れた存在である。その未信徒を教化するには、まず日常に仏教文化を染み込ませることから始めなくてはならない。日青塾では過日九月十二日に「怪談〜秋の夜長の僧侶語り〜」という未信徒対象のイベントを開催した。詳細は別に述べるが、まさに怪談話を通しての仏教文化の布教活動と言えるだろう。

もちろんこのイベントは宗教団体の主催でも開催出来るが、全くの未信徒の立場からするといささか敷居の高さは否めない。これが社会貢献活動を主とする(宗教活動が主でない)法人の主催であれば、参加者が他の参加者を誘いやすいという利点がある。今回のイベントもその利点が大いに生かされ、参加者が百六十人を越した。また宗教活動が主でない法人の主

催であるからと言って、意味を成さない訳ではなく、主催者や今回の様に語り手が本宗僧侶であれば参加者と接しているうちに、まさに綿にゆっくり水を染み込ませていくように仏教文化を伝えることが出来る。これらは一見遠回りのような布教手段かもしれないが、宗教離れや三離れが進む現代においてはその実、有効的手段である可能性が高い。急がば回れと考えて良い。

さて、約七百六十年続く本宗であるが、その歴史を重ねれば重ねるほど守るものが増えていく。これは文化であり、伝統であり、この上ない至宝でもあり、変わることをしない真実である。しかしながら、その至宝を人々に伝える手段、方法は時代とともに変化せざるを得ない。何故ならば時代とともに人々は変化し、文化も変化するからである。そして至宝を大切に守ることに執心し、人々に伝えることを怠った時にその至宝は輝きを失う。

これまでの歴史に無いことを始める時に、そして過去に学ぶことが出来ない時に、人々は必ず躊躇し、踏み留まることを選択する。それ自体は悪いことではないし、よくよく熟慮を重ね慎重に物事を進めていくことは重要である。しかしいつかは大きな選択を迫られる時が必ず来る。その時に最初の一步を踏み出すことが出来るかどうかを今後を占う。

日青塾はそのほんの序章に過ぎないが、新たな局面を迎えた一つの印であり、未来への入口である。そして未だ見ぬ世界へ踏み出す勇氣と決断のことを「未来」と呼ぶのかもしれない。

平成25年度 全国日蓮宗青年会 財務決算報告

平成25年5月8日～平成26年5月15日

収入の部

(単位 円)

款	項	科目	25年度予算額	25年度決算	増減	備考
1		単位日青会分担金	1,800,000	1,870,000	70,000	54日青会
2		宗務院助成金	800,000	800,000	0	
3		機関誌広告費	300,000	200,000	△100,000	8業者
4		活動助成金	1,000,000	1,330,000	330,000	
5		前年度繰越金	6,875,160	6,875,160	0	含記念誌作成費
6		雑収入	65,000	30,000	△35,000	宗報原稿料
		合計	10,840,160	11,105,160	265,000	

支出の部

(単位 円)

款	項	科目	25年度予算額	25年度決算	増減	備考
1		事業費	5,350,000	5,587,192	237,192	項1,2,3の合計
	1	各担当委員会事業費	750,000	919,246	169,246	12委員会・機関誌発行費等
	2	ホームページ経費	100,000	167,946	67,946	
	3	50周年記念誌作成費	4,500,000	4,500,000	0	
2		会議費	670,000	624,900	△45,100	項1～4の合計
	1	代表者会議	50,000	7,560	△42,440	
	2	執行部会議	90,000	88,560	△1,440	2回
	3	事務局会議	50,000	48,780	△1,220	
	4	各担当委員会会議費	480,000	480,000	0	12委員会
3		事務通信費	380,000	360,480	△19,520	振込手数料等含
4		出張費	1,360,000	1,171,826	△188,174	項1～4の合計
	1	ブロック会議	450,000	369,210	△80,790	
	2	全日仏青	150,000	152,086	2,086	
	3	執行部会議	360,000	346,380	△13,620	
	4	その他	400,000	304,150	△95,850	祝賀会・打合せ会議等
5		助成金	1,400,000	1,200,000	△200,000	項1,2の合計
	1	ブロック助成金	900,000	700,000	△200,000	
	2	結集助成金	500,000	500,000	0	
6		全日仏青負担金	250,000	250,000	0	加盟負担・協賛広告・大会負担
7		災害救援対策基金	200,000	200,000	0	
8		慶弔費	50,000	20,000	△30,000	2日青会
9		予備費	1,180,160	0	△1,180,160	
		合計	10,840,160	9,414,398	△1,425,762	

〈収入〉 11,105,160 - 〈支出〉 9,414,398 = 〈次年度本会計繰越金〉 1,690,762円

以上のとおり報告いたします

全国日蓮宗青年会 会長 小泉 輝泰
 財務 鶴澤 貫陽
 監査 川上 洋行
 監査 藤井 淳至

別途積立金 中間報告

特別会計

(単位 円)

項目	収入	支出	備考
前年度特別会計繰越金	1,231,188		
残高		1,231,188	

災害救援対策基金

(単位 円)

項目	収入	支出	備考
前年度災害救援対策基金	1,413,630		
平成25年度積立	200,000		
ゆうちょ銀行受取利子	1,047		
残高		1,614,677	

◎別途積立金残高 2,845,865

全国日蓮宗青年会 東日本大震災支援金 中間報告

(単位 円)

項目	収入	支出	備考
前年度繰越金	7,475,837		含東北子供支援繰越金
災害支援金	132,324		
復興線香収益	511,917		
集まれ東北の子供達支援金	2,627,874	3,440,616	
被災地子供支援		885,000	50周年チャリティーオークション
被災地活動支援金		865,800	
お茶っこ会		66,402	
口座手数料		4,092	
残高	10,747,952	5,261,910	
合計		5,486,042	

◎東日本大震災支援金残高 5,486,042

以上のとおり報告いたします

全国日蓮宗青年会 会長 小泉 輝泰 財務 鶴澤 貫陽

活動支援金・表賀拝受

ご支援・ご協力を頂いた方のご芳名(順不同・敬称略)

大分日青会
 青森立正青年会
 兵庫東部日青会
 大阪日青会
 大阪三島日青会
 福島日青会
 本佛寺 佐野前延
 福岡県日青会
 埼玉県日青会
 神奈川第三部日青会
 和歌山日青会
 圓乗寺 服部巧顕
 顕本寺 小泉輝泰
 常照寺 伊東政浩
 法華寺 本田義昌
 日誠寺 森下龍雲
 ネバダ日蓮仏教観音寺
 ネバダ日蓮仏教観音寺 金井勝海
 日蓮宗米国別院 井上定胤
 広島県宗務所
 広島県日青会
 岡山立正青年会

本会活動に多大なるご支援・ご表賀を賜り、心より御礼を申し上げます。充実した活動のため、活用させて頂きます。ご協力有難うございました。

一般社団法人日青塾主催

「怪談（秋の夜長の僧侶語り）」

平成二十六年九月十二日（金）に港区芝の圓珠寺（田村妙真住職）にて日青塾主催「怪談」イベントを開催した。当イベントは主に未信徒教化を主眼にしたもので、誰もが気軽に参加出来るのが特徴である。

語り手は「福川淳二の怪談グランプリ二〇一四」（関西テレビ）で優勝を飾った京都蓮久寺住職の三木大雲上人に依頼した。三木上人の巧みな話術と説得力のある分かり易い法話は以前より定評があり、また怪談話では「ただ怖い話をする」だけではなく、その裏にはしっかりと仏教思想や仏教文化が盛り込まれ、聞いている参加者は知らず知らずのうちに仏教、特に「法華経」に触れることが出来る。

当日は午後七時半より受付を開始し、午後八時開演、午後九時半に終了した。参加者は百六十人を越し堂内は熱気に溢れた。

当イベントの結果は終了後の参加者アンケートを見れば一目瞭然である。多くの参加者が怪談話を通して「供養」の大切

社会教化担当委員長
一般社団法人日青塾理事

藤井教祥

さを知り、先祖への「畏敬の念」を抱いたとある。そして是非またこの様なイベントに参加したいと感じていることが分かった。そして注目すべきことは、この参加者のほとんどが未信徒であるということだ。

未信徒教化は私たちの命題である。仏教を、法華経を世の中に広めようと私たちは様々な方法や手段で布教する。もちろん伝統的手法も効果的であろうが、世の中の変化が次第に早くなってきた昨今では、少し視点を変えて今までは違う方法でチャレンジしてみるのも意外な効果があるかもしれない。大切なのは私たちが時代や人々をよく観察し、そして柔軟に積極的に様々な方法で布教を展開してみようということだろう。日青塾では今後も誰もが参加出来る、楽しく、そして未信徒の日常に仏教文化を根付かせるような企画を開催していきたい。



其
老舖

宗祖名附茶屋

みのや

〒409-2524
山梨県南巨摩郡身延町
身延3703

TEL 0556-62-0312
FAX 0556-62-2526

振替口座 00450-2526

E-mail
minoyall@eos.ocn.ne.jp

総本山身延山久遠寺御用達
日蓮宗大覚行堂御用達
各本山寺院御用達

念珠、仏像、仏具
水晶、印伝、名香
雨燻儀、土産品一式
印章一式、表装

済不山用造(中)麻布店

株式会社 池澤法衣佛具店

〒604-8116 京都市中京区高倉通六角下ル
TEL 075-221-2769(代) FAX 075-256-0036

●日曜・祝日・第2、第3土曜日は勝手午ら休業させていただきます。

通話料は無料(弊社負担)で承ります。(AM10:00~PM5:30迄)

0120
Free Dial

0120-23-4570

総本山身延山久遠寺御用 日蓮宗大荒行堂御用

数珠製造・仏像仏具・各種記念品土産一式

若松屋数珠仏具店

山梨県南巨摩郡見延町見延3700

TEL 0556-62-0145 FAX 0556-62-0191

振替/0045-5-1624 取引銀行/山梨中央銀行見延支店

E-mail wakamatu@eps1.comlink.ne.jp

ホームページ URL <http://www.eps1.comlink.ne.jp/~wakamatu/>

総本山身延山久遠寺・日蓮宗大荒行堂 御用達

身延山ご参拝お土産品 各種記念品等

浪花屋珠数仏具店

店主 深澤永寿

〈東谷参道の老舗〉御珠数・仏像・仏具・太鼓・掛軸・経本・線香・木鉦・印伝・水晶 等

多少に関わらず御用命お待ちしております

〒409-2524 山梨県南巨摩郡身延町身延3550 TEL 0556-62-0200 FAX 0556-62-0771

伝えたい! をお手伝いします

<http://www.e-for.jp/>

取扱品目

印刷全般

機関誌・報告書・名簿・他ページ物
パンフレット・ポスター・会社案内
封筒・名刺・帳票類
ノベルティ・他特殊印刷

メディアミックス

ホームページ企画・作成・管理
ビデオ撮影・編集・パッケージ化
電子書籍・出版
プログラミング・データ処理
掛軸・文化財レプリカ作成

株式会社 イーフォー

〒141-0031 東京都品川区西五反田8-7-11 アクシス五反田ビル202
TEL 03-3779-1140 FAX 03-3779-1141

当店オリジナル

四季の身延 祭りのお香シリーズ 季節の香 身延山の香シリーズ

総本山身延山久遠寺 日蓮宗祈禱大流行堂 御用達

水晶・印伝・珠数・印章専門店

英玉堂

雨宮英夫

〒409-2524 山梨県身延山3702番地
電話 0556-62-0023 FAX 0556-62-3376
英玉堂HP <http://www.shokokai.or.jp/19/19365150025/>

味が自慢の身延名物

みのぶまんじゅう みのぶようかん

身延山御用達

松屋

身延山門前
山梨県南巨摩郡身延町身延3667
電話 0556-62-0043
FAX 0556-62-2143

みのぶまんじゅう
(10個入り900円～)

全国日青加盟単位日青会 会長名簿 (平成26年9月現在)

富山県日青会	新潟県西部日青会	新潟県東部日青会	伊豆国日青会	栃木県日青会	茨城県日青会	埼玉県日青会	千葉県北部日青会	千葉県南部日青会	千葉県西部日青会	千葉県東部日青会	神奈川第三部日青会	神奈川第二部日青会	神奈川第一部日青会	東京南部日青会	東京西部日青会	東京東部日青会	青森立正青年会	秋田県日青会	岩手県日青会	山形県日青会	宮城県日青会	福島県日青会	北海道北部日青会	北海道南部日青会	北海道西部日青会	北海道東部日青会
谷川	海津	本間	大塚	野澤	小林	古山	河端	佐々木	田澤	小堀	加納	下邨	後藤	轟	吉田	藤井	最上	藤倉	菊池	東海林	三田	巻	鹿内	菊地	松井	岡元
寛敬	武尚	詮雄	信誠	智秀	栄樹	崇道	孝順	木教道	裕泰	善光	祥有	匡司	泰行	慈恭	勝観	教祥	泰滉	信行	錬城	要賢	圓明	延彦	祐生	英徳	義宣	一実
宮崎・鹿児島・沖縄日青会	大分県日青会	長崎県日青会	佐賀県日青会	日蓮宗熊本県青年会	福岡県日青会	鳥取県日青会	鳥根県日青会	広島県日青会	岡山立正青年会	兵庫東部日青会	和歌山日青会	奈良立正青年会	大阪豊能日青会	大阪三島日青会	大阪和泉日青会	大阪日青会	京都府第二部日青会	京都日青会	三重県日青会	愛知県尾張日青会	愛知県三河日青会	名古屋日青会	岐阜県日青会	長野県日青会	石川能登日青会	石川第一日青会
太田	三ヶ尻	加藤	静山	三坂	川崎	米涌	坂本	長崎	山本	都倉	吉野	松島	高橋	望月	矢野	般谷	中山	日暮	富田	宮崎	河合	勅使河原	田中	伊神	藤井	堀田
寛周	和生	功承	智祐	恵豊	泰龍	玄雅	教暎	龍深	観詠	隆祥	俊幸	寛宗	大光	恵真	義法	真亮	孝俊	有宏	周温	貞悟	良延	裕史	玄記	昭光	龍教	

大陸旅遊
Tairiku Tours & Leisure co.,LTD

時我及衆僧
俱出靈鷲山

国内外を問わず団参は
日蓮宗指定業者

大陸旅遊

日蓮宗指定業者 株式会社大陸旅遊

TEL 03-3376-2511 FAX 03-3376-5280
〒160-0023 東京都新宿区西新宿5-5-6 第二ダイヤモンドビル2階
<http://www.tairikuryoyu.co.jp> mail: tlic@tairikuryoyu.co.jp
観光庁長官登録旅行業第1399号 / 一般社団法人日本旅行業協会正会員